

CONTENTS

COMBAT

2012.Feb.
No.431

2

Cover Design
Raidensha (Hidetaka Koyanagi),
Cover Photo
Kunihisa Kobayashi
©WORLD PHOTO PRESS 2012



【第1特集／トイガン】

016

トイガン 特集 につぽんの本気銃

うなるギミック、驚きのリアルさ、そして反動。独自のアイデアから生まれるこの国のトイガンは、ある意味実銃以上の存在だ。安全とドキドキを高次元で融合したにつぽんのトイガンを総力特集。メーカーの本気をいま受け止めろ!

060

TOKYO MARUI S-CAR-Heavy

●Photos&Text by Tomo Hasegawa

064

TOKYO MARUI COLT GOVERNMENT Mark IV SIRIES '70

●Photos&Text by Taku

068

WESTERN ARMS COLT COMBAT COMMANDER SEECAMP CUSTOM

●Photos&Text by SHOTGUN MARCY

【第2特集／ムービー】

COMBAT Recommend movie

004



©2011 PARAMOUNT PICTURES. All Rights Reserved.
●解説：狩野健一郎

044

マイウェイ

12,000キロの真実

©2011 CJ E&M CORPORATION & SK TELECOM. ALL RIGHTS RESERVED
●解説：デューク廣井

182

1972年のTVドラマ版から最新の映画版まで 映画『ワイルド7』と銃

●Photos&Text by SAKURA KEISUKE

006

NEW GENERATION STYLER OPERATOIN SMOCK ATTACK

●by Fujiwara

078

MAGFORCE INTERNATIONAL 2012 New Models preview マグフォース2012年新作

●Photos&Text by Tomo Hasegawa

047

カメラマン 横田徹が行く 「ソマリアの海賊対策」

●取材：横田 徹

050

GOODS & ACCESSORY

054

トイガンニュース

054 CAW 南部十四年式 後期型

055 KSC HK45

056 WA コルトM1911〈ブリティッシュ・サービスピストル／ガンブルー・モデル〉

057 WA ベレッタM1934〈ノワール／サイレンサー・バージョン〉

058 WA コルトMkIVシリーズ '70〈ハンター／ビンテージ・エディション〉

058 WA ベレッタM9〈ハートロッカー／バトルダメージ・バージョン〉

074

WESTERN ARMS SCREEN PROPERTY Ver.2012 SERIES

●Photos&Text by SHOTGUN MARCY

084

フィギュアのトップブランドHOT TOYSのセレクト・ストアがオープン!! TOY SAPIENS

●Photos&Text by Taku

085

Militaria Roundup! WWIIドイツ陸軍オーバーコート

●解説：菊月俊之

096

サープラスいじり技術研究所

●写真・文：織本知之

130

The Equipments of the U.S. Force [現用米軍装備カタログ] 第86回 NAVY SEAL AOR1 DESERT装備特集 (香港コレクター編Part.2)

●解説：松原隆 (高知ボンバズ) / ●監修：Bonz Or

138

月刊 自衛隊「ニッポンのちからこぶ」 東北方面隊・戦車射撃競技会

●取材：菊池雅之

142

PRESENT

184

S&Graf WWIIドイツ軍グッズ

186

中田商店グッズ

097

2011 ショットショージャパン 〈秋の部〉

098

最高のクオリティをリーズナブルな価格で手に入れられる!!

フロンティア・オリジナルサイト

100

物欲ワンホール

Round 06：バッグinバッグ

104

レア・ミリタリー・テクノロジー

108

ミリタリー雑学講座

112

ミリタリー・コレクション

114

幻妖中隊 #mod.06 ●by FUJIWARA

116

アップルフェスタ2011

118

A STITCH IN TIME

119

MGストーリー ～小峯隆生のできるまで～

122

蛙のゆびさき (中山 蛙)

124

トイガンズジャンクション

161

バックナンバーリスト

162

君は何と闘うのか ～世間の常識との闘い方～ ●文：甲野善紀

164

帰ってきた 狩野健一郎の [監督、そこにおっぱいは必要ですか!]

166

アメリカGUN事情 Guns Talk from US

168

ビバ! ナイフ

170

石井健夫のシネマノート

171

狩野健一郎の新作DVD紹介

172

コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175

読者プレゼント応募方法

176

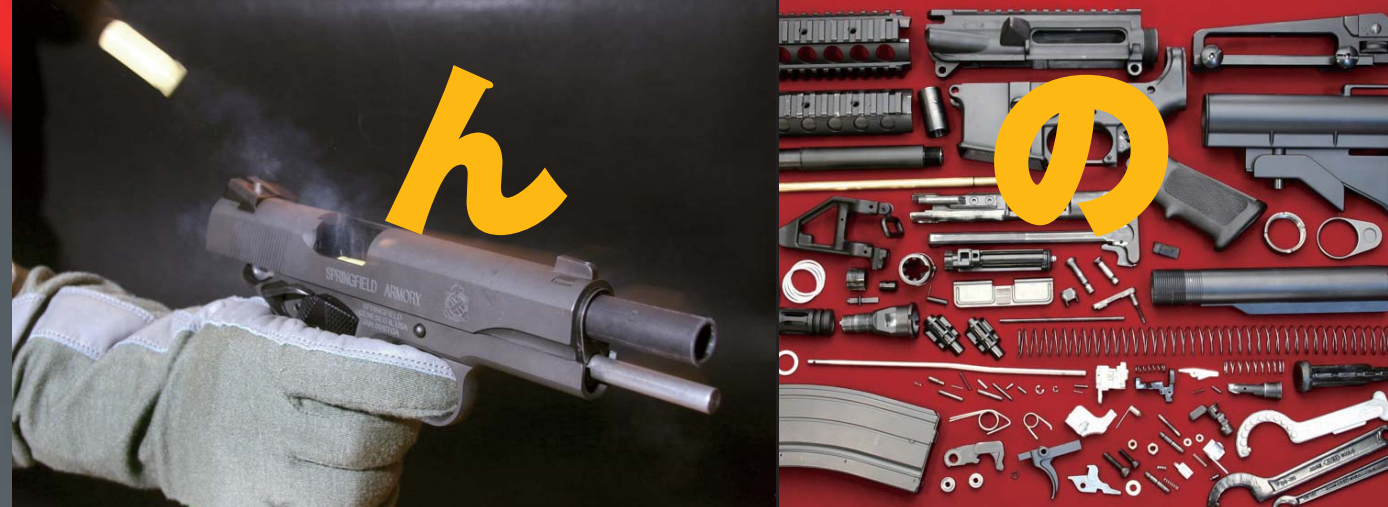
編集後記



お詫びと訂正

コンバットマガジン2012年1月号記事「トイガンニュース」の「セキト-BOLT AIRSOFT B4A1 6-MM CARBINE」の文中におきまして、台湾のBOLT AIRSOFT社が東京マルイの台湾での総代理店との記述がございましたが、そのような事実関係はございませんでした。関係者および読者には大変ご迷惑をおかけいたしました。ここにお詫びと訂正をさせていただきます。

にっぽん



特集

TOYGUN

●Text: SHOTGUN MARCY

●PHOTO: SHOTGUN MARCY / KUNIHISA KOBAYASHI

日本の社会が戦後の焼け跡から立ち上がり、高度成長期に入った1960年代、純日本製のモデルガンが誕生した。場所は闇市のメッカ、東京・上野「アメ横」。常に日本の庶民文化をリードしてきた熱い場所だ。

第一次ガンブームの追い風を受けて急速に進化した日本のトイガンも、誕生からすでに50年。人間ならそろそろくたびれてくる頃だが、その勢

いは止まらない。バブル経済が崩壊し、厳しい規制が課されてはいるが、少しずつ方向を変えながら、さらに魅力的なトイガンを作り出すためにメーカーも技術者達も頑張っている。「実銃を所有することが難しい日本人に、実銃以上のトイガンを提供する」

そんな思いからスタートした日本のトイガンは、今や世界に類を見な

いほどクオリティの高い物となった。日本のトイガンは、根気と情熱、世界に誇る職人気質が造り出した日本特有の文化でもある。そんな人達が簡単にあきらめるわけがない。状況が厳しくなれば、その厳しい状況を逆手に取って先に進む。

「今は量を作るよりも、アイデアを巡らすべき時」

あるトイガン・メーカーの社長が

そんな話をしてくれた。確かにその通り。厳しい状況に陥った頃から、製品化の速度が落ちたとはいえ、以前より楽しめる魅力的なトイガンが開発されるようになったと思う。それらは、現状が好転した時、今は想像することもできない新しい日本のトイガンを生み出す原動力になることだろう。

今回の特集では、そんな日本のト

イガンを「撃ち応え」と「コレクション性」という観点でセレクトし、それぞれの魅力を紹介していこうと思う。「撃ち応え」は、撃った時の手応えとアクションがもたらす視覚効果に注目。「コレクション性」はメカニズムのリアルさと再現性、アイデアの面白さなどに注目してセレクトしてみた。

再現性の高さは、日本のトイガンに

共通しているし、撃ち応えとメカニズムのリアルさを兼ね備えたモデルも多い。ここで紹介するすべてのトイガンが、その両方を備えているともいえるので、あくまでも「あえて分けるなら」という程度の基準であると思っていただければいいだろう。

では、世界に誇る日本の職人技が造り出した“メイド・イン・ジャパン”の底力を、心ゆくまで楽しんでほしい。

TOKYO MARUI SCAR-Heavy

Photos&Text by Tomo Hasegawa
東京マルイ
☎03-3605-3312
http://www.tokyo-marui.co.jp/

待望のSCAR-Hついに発売！

SCAR-Hの発売を待ちました！そう
です、東京マルイ次世代電動ガンシリーズ
の最新作として“SCAR-Heavy”が新登場。
見本市やネットなどですでに情報が出て
いるからご存じの方も多と思う。すでに
5.56mm仕様のSCAR-Lightが次世代電動ガ
ンシリーズで発売され人気だ。しかし
“SCAR”というトモ的には今回の“ヘビ
ー”タイプの登場を待っていたわけで、待
望の発売なのだ。

SCARの“H”と“L”。口径違いのバリエ
ーションと誤解されやすいが、使用弾サイ
ズからマガジン・サイズが異なる。それ
にともない口アレシーバーやアッパーレシー
バー、フラッシュハイダー、アウターバレル
などがすべて違う。つまり、ストックと
グリップ以外の主要部分のサイズや形状が
違うのだ。そのためバリエーションであり
ながら、今回東京マルイは主要外装パーツ
を新規で製作。“L”同様アッパーレシーバー
はアルミCNC加工 & アルマイト処理で美
しい仕上げ。レイル幅や形状もしっかりピ
カティニ規格で、手持ちの実銃用マウント
類はすべてガッチリ取り付けられた。

2色のチョイス！そして2挺分 楽しめるサービスが魅力！！

“SCAR-H”はブラックとフラットダーク・
アースの2色が発売。「今どき人気はブラウ
ン系……」かと思いきや、ガン&ミリタリ

ーの世界ではまだまだブラックモデルに根
強い人気がある。黒でなければ絶対ダメ！
という人もいるほど。SCARではどちらの
色が人気なのか？ まったく個人的な興味
ではあるが、発売後にチェックしておきたい
ことのひとつだ。

さらに今回、長さの異なるアウターバ
レルが付属。14mm逆ネジで簡単に交換可能。16
インチのスUNDERから13インチのCQC
モデルへ即変身できるのだ！ 嬉しいアウ
ターバレルチェンジシステムで、フルサイ
ズとショートバレルの2挺分楽しめちゃう
のだ。

アウターバレルを交換できて、次世代電
動シリーズ屈指の命中精度。高性能が大きな
魅力だ。

US次期主力戦闘銃トライアルの 勝者SCAR

ところで“SCAR”とは「Special opera
tions forces Combat Assault Rifle」の略。M4
に継ぐアメリカの次期主力戦闘銃のトライ
アルに参加した時の俗称だそう。すでに
部分採用が始まっている。実銃カスタムガ
ンメーカーでもアクセサリパーツが確実に
増えており、ショットショー2011では
SCARベースのカスタムガンが一気に増殖。
確実に浸透しているようだ。

米軍では以前からM4に変わる戦闘銃を
模索。より軽量で扱いやすく、各種装備を
装着でき1挺でさまざまなシチュエーシ
ョンでの戦闘に対応できる戦闘銃を求めて



SCARヘビーが東京マルイ次世代電動ガンとして新登場！
フラッシュハイダーにマガジンなど、SCARシリーズ
.308口径モデルならではの迫力をリアルに製品化。
さらに付属品と豊富なアクセサリを組み合わせ、楽しみが広がるっ！

待望のSCARヘビーモデルが新登場。
予価¥65,940で2011年12月28日発売（ブラックのみ）。

- 全長：16インチ：902～965mm（16インチ
伸長時）／711mm（16インチストック
折りたたみ時）
13インチ：826～889mm（13インチ
伸長時）／635mm（13インチストック
折りたたみ時）
- 銃身長：300mm（インナーバレル長）
- 重量：3,630g（バッテリー含まず）／
3,600g（CQC時）
- 総弾数：90発（ノーマルマガジン／20発調
整可）／オプションとして540発マ
ガジン有り

いた。FN社は2003年のトライアルに向け
SCARを開発。アメリカのロビンソンアーマ
メント社のXCRが対抗馬としてあったが、
製作のトラブルからトライアル不戦敗。FN
SCARの採用がもっとも有力視されていた。
しかし、2005年にHK XM-8が登場。さらに
HK416が参戦。作動性能や命中精度の面で
XM-8が好評だったが、多量の埃と灼熱の環
境……つまり中東やアフリカでの使用を目的
に耐熱性面で耐久性不足が露呈。樹脂を
多用した本体の脆弱さが露呈したという話
した。プラスチックといっても身近にある
ものとは違い、実銃に使われるものは強力
な耐久性を持った素材。樹脂ならではの
弾力性からある意味金属よりも強いといわ
れ、高温に充分耐える性能があったはずだ
った。しかし、実際に40℃以上の熱砂で連
射するとバレル周りが溶けて作動不良を起

ブラックとフラット・ダークアースの2色が発
売！ それぞれに魅力がある。マーキングはレ
ーザー刻印だ。



付属のアウターバレルに取り替えれば13インチのCQCモデルに
即変身！ 2挺分楽しめちゃうのだ！！

こすのだという。素材に弾力があるとはい
え、バグ内などで長時間の圧迫を受ける
と変形してしまうなどの問題が指摘された。
一時ハンドガン用マウントでも樹脂製のも
のがあったが、同様の変形問題で精度が出
しにくく、すぐに消えていったことがある。
データ上の可能性はあっても、実際に試し
たとき思わぬ脆弱さが露呈することがある。
数値はあくまでも机上の空論。理論だけで
なく、実際にテストすることが肝要なのだ。
軽量化の目的では樹脂は魅力的な素材だ。



チークピースが実銃どおりに可動。使用するスコープやマウント
に合わせ調節できる。

しかし、現状では金属製の方が優れている
と判断されたのだ。軽量化よりも命中精度
を保つ頑強さと耐久性が、戦闘銃として必要
な要素であることがしっかりと判断された
のだ。SCARはレシーバーからフォアエン
ド部分まで金属製一体の構造。頑強さと精
度が保ちやすい。しかし、US SOCOMは次
期主力戦闘銃として「1挺で異なる口径に
対応」という項目を付加。マグプル
MASADAが登場したが、結局はSCARがUS
ミリタリーの要望に応えるように改良を加



フリップアップタイプのリアサイト。
上下左右に調整と着脱が実銃どおりな
のはいうまでもない。

えバージョンアップ。2010年前後から一部
で採用が決まり。順次M4と入れ替わって
いくという。

しかし、コルトが新型ストックやモノリ
シック・レシーバーにしたM4のニューバ
ージョンを発表。さらに、アッパーレシー
バーを付け替えるだけで、5.56mmと7.62mm

WESTERN ARMS

COMBAT COMMANDER SEECAMP CUSTOM

Photos&Text by SHOTGUN MARCY

ウエスタン アームズ

☎03-3407-5922

http://www.wa-gunnet.co.jp/



コルト・コンバット・コマンダー
〈シーキャンプ・カスタム／スタンダード〉

- 全長：198mm
- 銃身長：95mm
- 重量：約800g（実測値）
- 装弾数：21+1発
- 予定価格：¥39,900
- 12月下旬WA渋谷店限定発売の予定!!



コルト・コンバット・コマンダー
〈シーキャンプ・カスタム／デラックス〉

- 全長：198mm
- 銃身長：95mm
- 重量：約800g（実測値）
- 装弾数：21+1発
- 予定価格：¥47,250
- 12月下旬WA渋谷店限定発売の予定!!



1980年代にWAが発売した
ダブルアクション・コマン
ダー。固定スライド・ガス
ガンの時代に、一世を風靡
した人気モデルだ。

マグナブローバックで魅った '70年代の傑作カスタム

ウエスタン アームズ（以下；WA）のキャラクター・シリーズが大好評だった2011年。そのシリーズの中にひとつ、「M1911A1 緋弾のアリア」が発売された時に、製作の可能性ありとお伝えした“コンバット・コマンダー・シーキャンプ・カスタム”が、早くも登場することになった。

シーキャンプ・カスタムは、“ホークKKスペシャル”“ボブチャウ・スペシャル”と並ぶ、'70年代を代表する傑作カスタムのひと

つ。1978年に永田市郎さんが日本に紹介して以来、ガバメント・ファン憧れのカスタムガンとなって現在に至っている。このカスタムガンの特徴は、ベーシックなコマンダーのフレームに、ダブルアクション・メカニズムを組み込んでいること。そう、シーキャンプはダブルアクションのコマンダーなのだ!!

ガバメント系の.45オートは、皆さんもよく知っている通り、2011年で完成から100年を迎えた傑作中の傑作だ。1911年から1985年までの74年間、米軍の制式採用拳銃の座を守ったアメリカを象徴するセミオートでもある。そのため、軍、警察、一般を

問わず、アメリカ人には愛用者が多い。また、現在でもその人気が続いていることは、ここで改めていうまでもないだろう。

1970年代後半、S&Wやヨーロッパ系のダブルアクション・セミオートがアメリカの市場を賑わすようになると、フォーティファイブ信者達の間で、ある不満、というか希望が囁かれるようになったという。そう、シングルアクションのガバメントを、何とかダブルアクションにしたいという夢だ。S&Wやヨーロッパ系のセミオートにはダブルアクションのモデルが多い。その機能

刺激するカバン!

MAGFORCE INTERNATIONAL

2012 New Models

マグフォース2012年新作

Photos&Text by Tomo Hasegawa
問い合わせ先: キンリュー ☎0575-22-3066 (<http://www.magforce-jp.com/>)

1000ディニールのナイロンを使ったタフな仕様。ミリタリーとカジュアルが
ほどよくブレンドされた個性的なデザイン。どこかで見たバッグではなく、
実用的なアイデアが盛り込まれ使いやすい! 見ていると使いたくなってしまう。
“刺激するカバン”……それがマグフォースだ。



ストラップの長さ調整はワンアクション。バイクに乗る時、歩く時、行動に合わせ素速く快適な長さにフィット可能。

クロストラップで固定すれば、より安定して携帯できる。タイトル写真のようにバイクに乗る時や走る時に最適。



各部にポケットを豊富に装備。優れた収納力を発揮。また、17インチのMacBookプロが格納できる!



両サイドにボトルキーパーを装備。1ℓのナルゲン・ボトルが楽々収納できる。



フラップのスライドファスナーからバッグ内にアクセスできる。バックルを外してフラップを開ける手間が省ける!

“なぜ、カバンに凝るのか?”

それは効率よく収納できる、使いやすいバッグが使いたいからである。

人によってはブランド・イメージだけが先行し選んでしまうタイプの人も多いが、ボク達はバッグの実用性を重視したい。

形状や雰囲気、バッグを選ぶ時の注目ポイントは色々ある。形だけでなく「こんな使い方をしたら面白そう……」と刺激してくるようなモノ。それが使いやすかったら即採用である。マグフォースの製品には面白いバッグが多くあった。

最新“メッセンジャー”

“あつ、使ってみたい!”

マグフォース社で最新モデルを見た時も刺激を受けた。メッセンジャーバッグだがサイドにMOLLEを配し、適度にミリタリーでタクティカルなテイストをブレンド。今回の取材以前から某社のメッセンジャーバッグを使っていたのだが、収納力が低く嫌気が差していただけに余計刺激が強かった。

各部にポケットを配置して効率よく収納



トモのアイデアが実現可能か? チャン社長(左)は試作品を手にし、メモを繰り返す。

メッセンジャー

マグフォースの最新作“メッセンジャー”。人気のメッセンジャーバッグをマグフォース流アレンジを加え、とても使いやすいバッグが誕生。2012年大注目の逸品(2012年春発売予定/価格未定/注:写真は試作品のため色や仕様変更される事があります)。

